

### 3 - 10 伊豆半島東部の群発地震 ( 1976 年 11 月 - 1977 年 5 月 )

#### Earthquake Swarms in the Eastern Part of the Izu Peninsula(November 1976-May 1977)

東京大学地震研究所 地震移動観測室・地震活動研究部門  
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

伊豆半島東部の群発地震活動は、昨年 8 月 18 日の河津地震 (  $M = 5.4$  ) 以降、多少の消長を示しながら次第に衰え<sup>1)</sup>、特に本年 1 ~ 2 月頃は極めて静穏化していたが、4 ~ 5 月には、大室山から天城峠に至る北東から南西にのびる線上で、再び微小地震の群発活動が、くりかえし発生した。

第 1 図に、奥野における S - P 別地震回数の変化、第 2 図 ( A ) ~ ( E ) に、1976 年 11 月 ~ 12 月、1977 年 1 ~ 2 月、3 月、4 月および 5 月の各期間の震央分布図を示す。

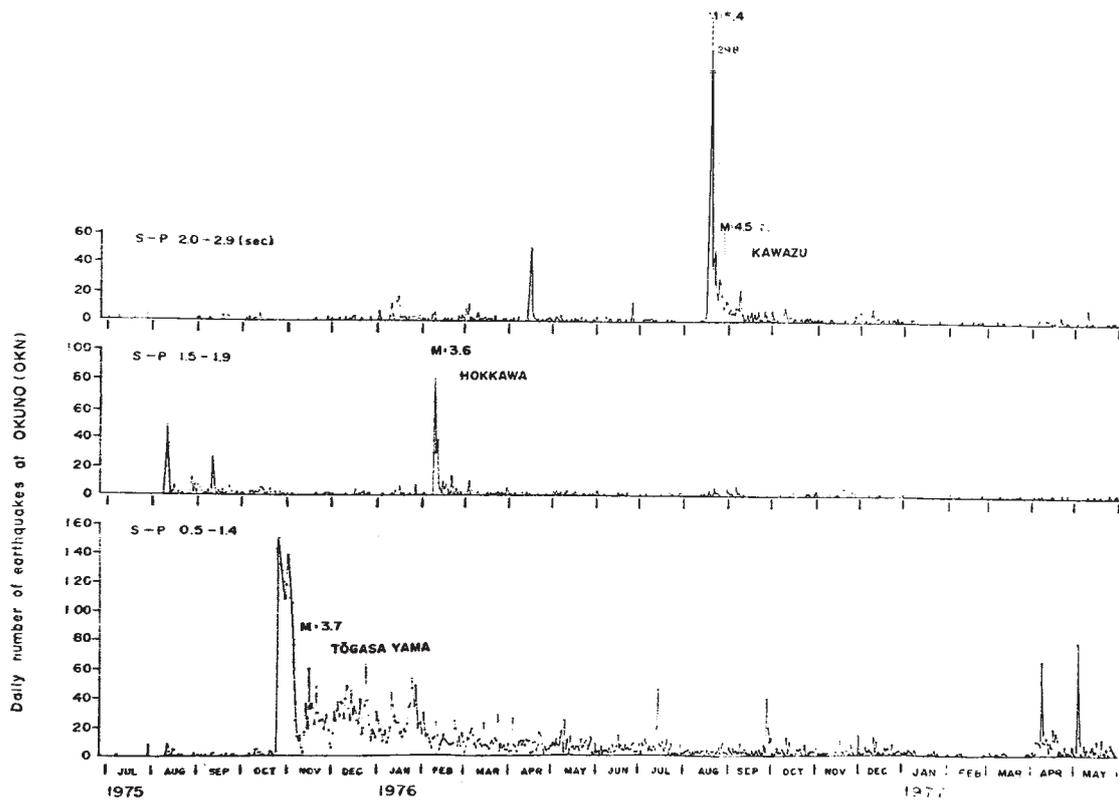
特に顕著な活動は、4 月 9 日に大室山付近に発生したもの ( 最大  $M = 2.3$  ) と、5 月 4 日に天城山の北方に発生したもの ( 最大  $M = 2.9$  ) で、いずれも、数時間程度の短時間に集中的に活動した。なお、遠笠山付近には 4 月以降再び継続的な活動がみられる。一方河津地震の余震域、特にその南東部は、本年に入ってほとんど活動がみられなくなっている。

第 3 図は、1975 年 11 月 20 日から 1976 年 12 月 31 日までの震央分布図である (  $M < 0.5$  の地震は省略した。また従来発表のものよりデータの追加・訂正を行った結果である )。これ迄の図では範囲外となっていたが、伊豆半島沖地震の余震域の活動が依然続いていることがわかる。また、伊東市付近や東経  $139^\circ$  線沿いに北にのびる分布が明瞭となった。全体を概観すると、伊豆半島東岸に平行して陸側に約 20 km の幅で活動がみられ、伊豆半島沖地震と今回の群発地震活動は一連のものであるように思われる。

( 唐鎌・酒井・萩野・津村・高橋 )

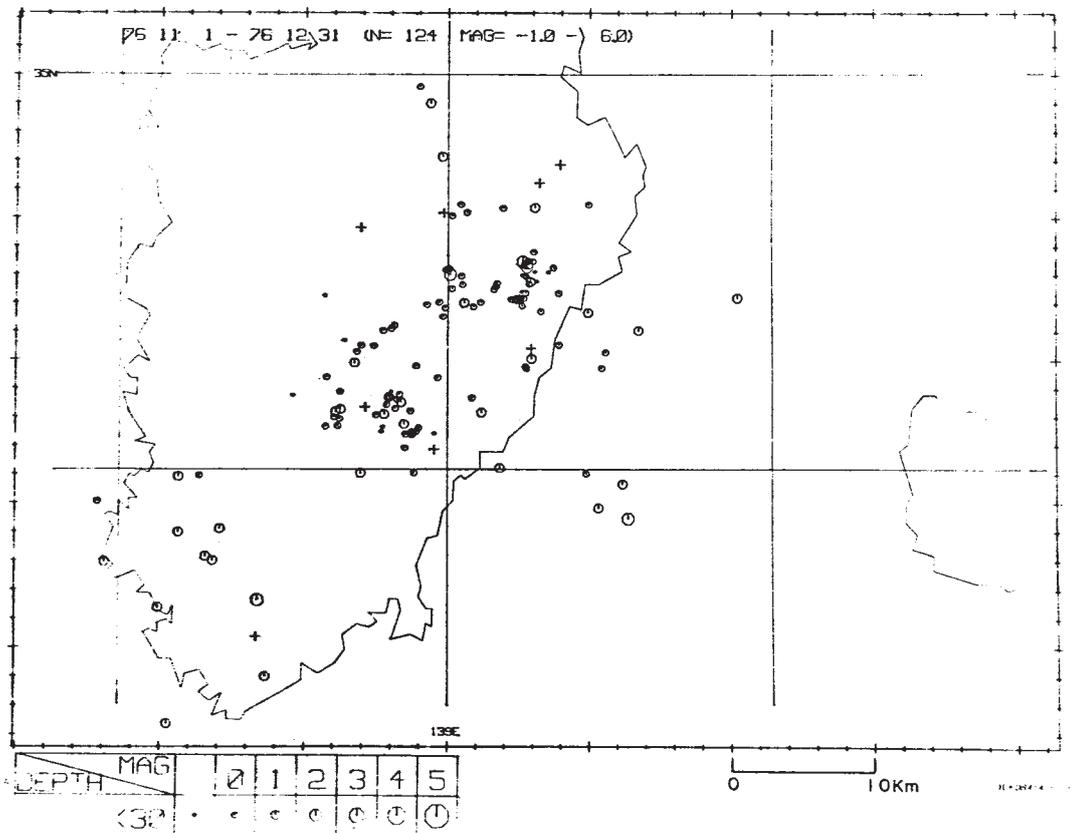
#### 参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所：伊豆半島東部の群発地震 ( 1976 年 5 月 - 10 月 )，連絡会々報，17 ( 1977 ) 71 - 75.



第1図 奥野観測点におけるS-P別地震回数

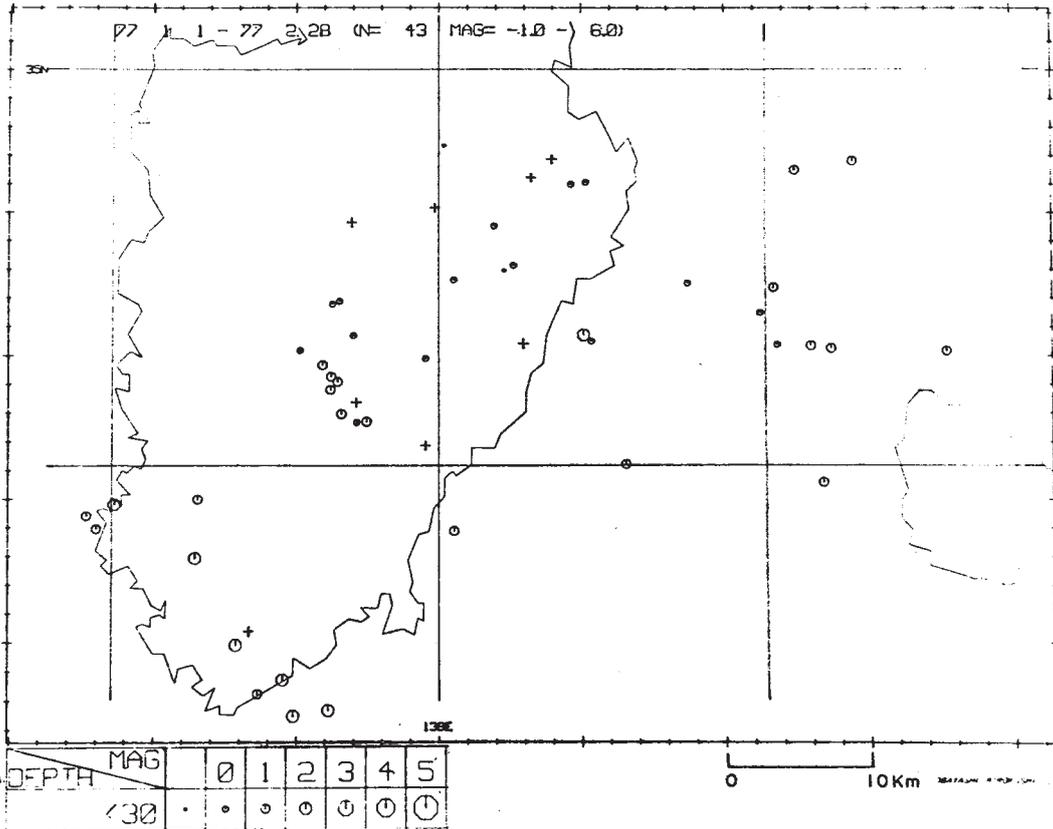
Fig. 1 Daily number of microearthquakes recorded at Okuno station, for different ranges of S-P time.



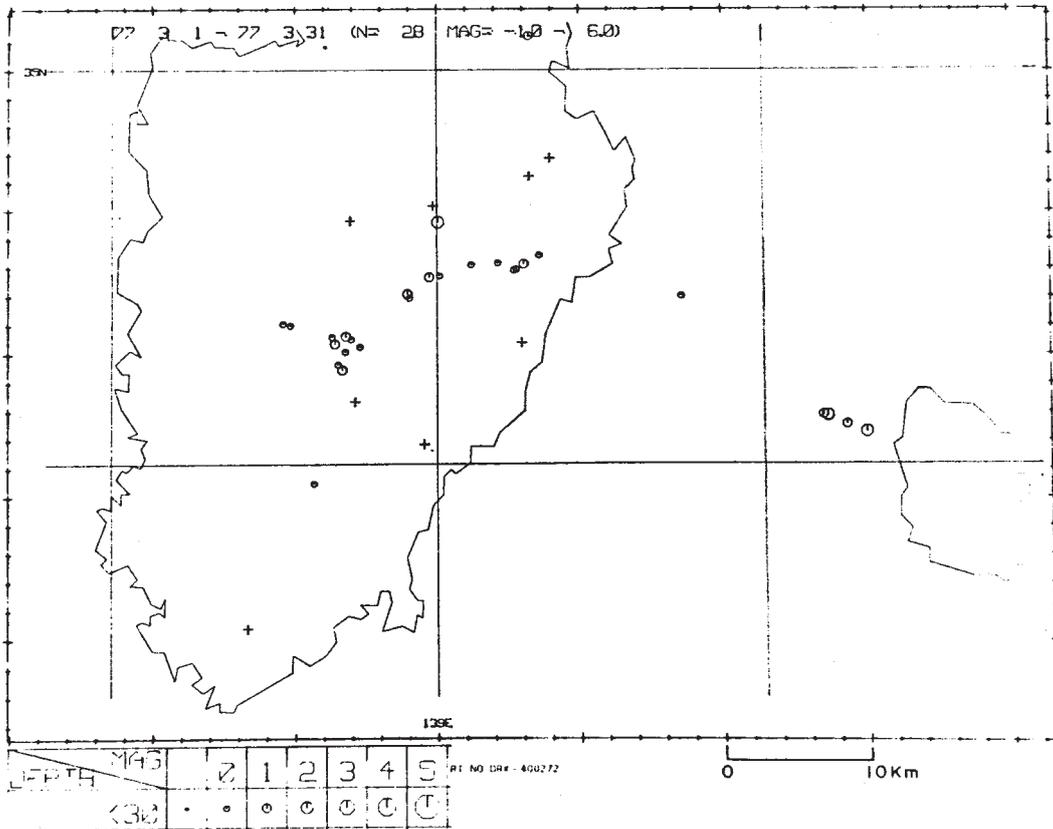
(A) November-December 1976

第2図 1976年11月～1977年5月の震央分布図

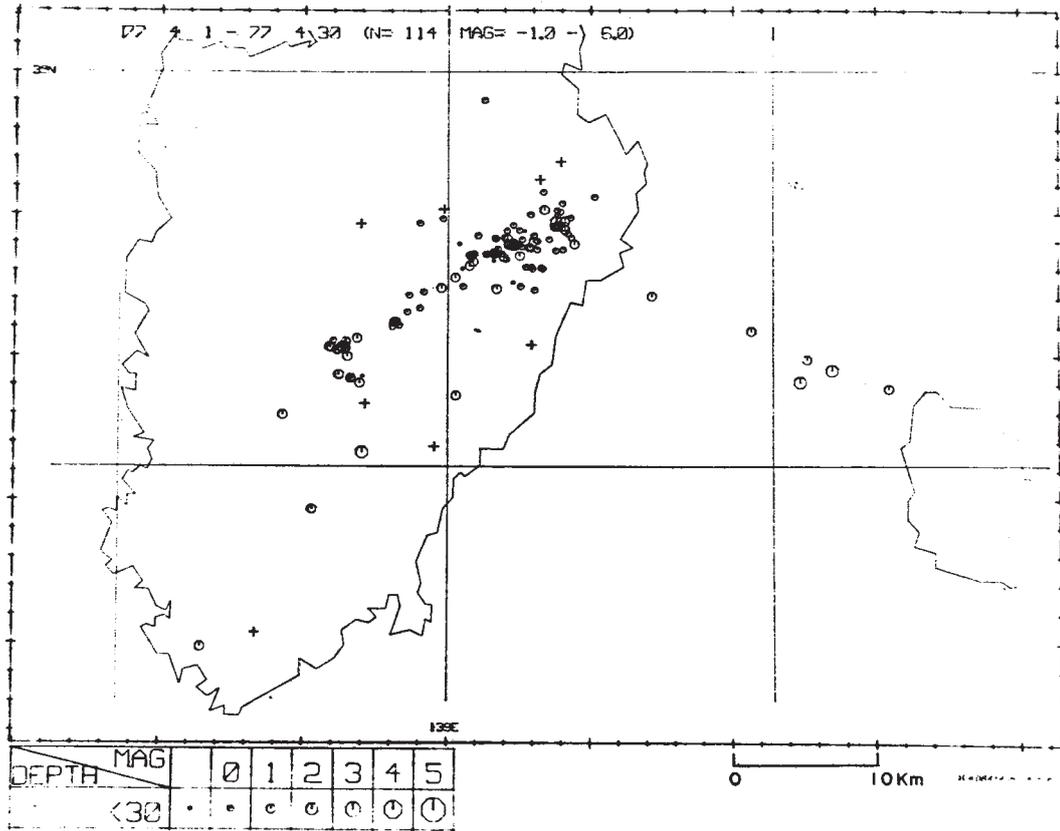
Fig. 2 Distribution of epicenters for November 1976 - May 1977.



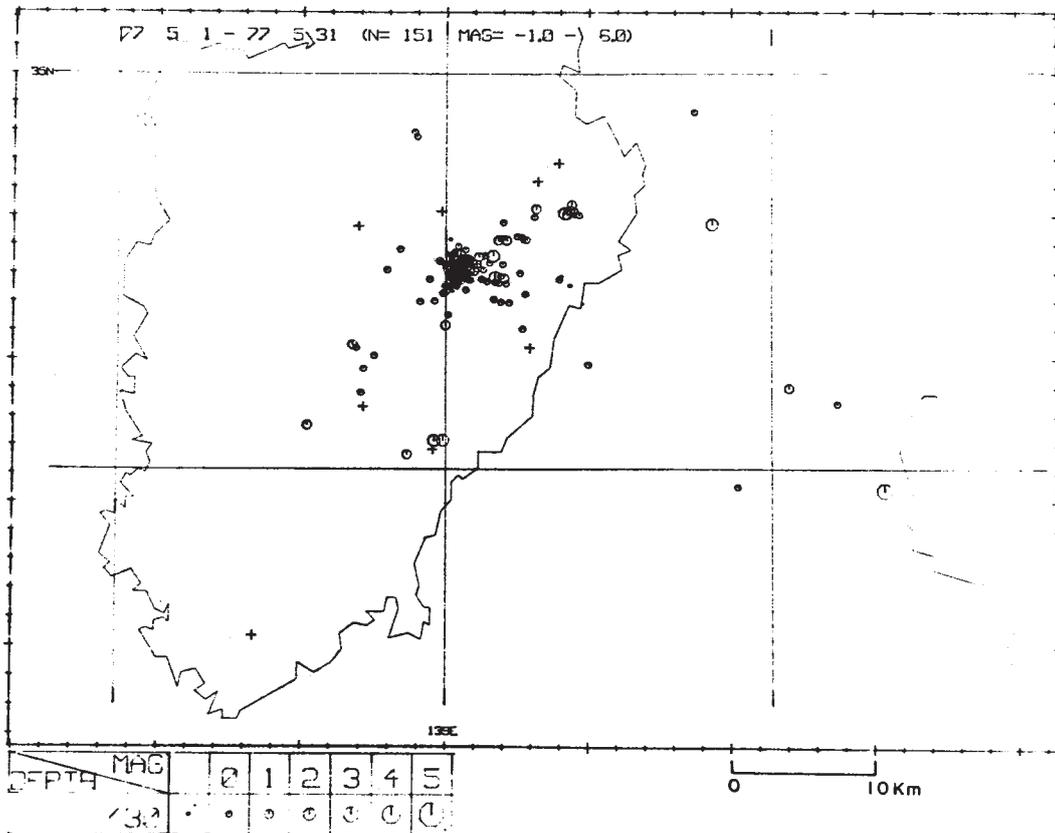
(B) January- February 1977



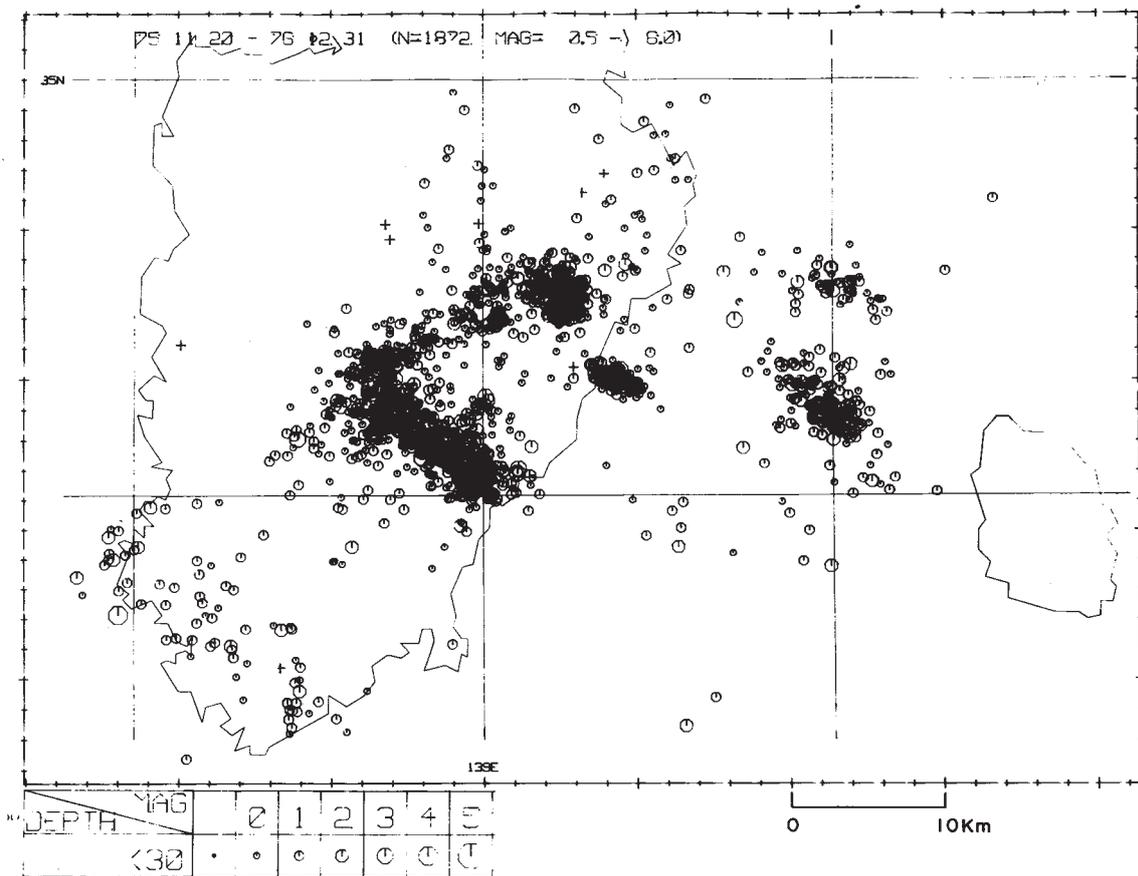
(C) March 1977



(D) April 1977



(E) May 1977



第3図 1975年11月20日～1976年12月の震央分布図  
 Fig. 3 Distribution of epicenters for November 20, 1975 -December 1976.